施策評価の実施（第1回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

委員 歳出の抑制が求められている中で、担当部局としては、どこをどんなふう
に減らしていくという展望を持っているのかを参考にお伺いできますか。

担当部局 いろいろと知恵を絞りながら検討していますが、今の段階では具体的に何
年後はこうしますというところまで検討はできていません。

水難対策事業や海浜等施設管理事業、自然公園管理事業などについては、
維持管理部分が多く、義務的経費がかなりの部分を占めています。また、指
定管理施設運営事業や指定管理施設大規模改修事業、丹後ウルトラマラソン
開催事業についても、削減することが難しいものばかりですし、観光宣伝活
動事業のほとんどが協議会への負担金となっています。その事業をやめないと
歳出の削減にはつながらないものが多い中で、現段階では、事業そのもの
をやめるという選択が、京丹後市だけで決断を出すのが難しいところもあり、
非常に苦慮しているところです。

本施策に対して、どの事業が効果的かそうでないのかについては、結果が
なかなか見えてこない状況もあり、非常に判断が難しいと思っています。い
ずれにしてもスクラップ・アンド・ビルドの考え方では取り組んでいかなか
てはいけないと考えています。

委員 長 施策目的やめざす目標についての質問や意見があればお願いします。

委員 めざす目標について、目標の達成には現状の実績値より3割アップが必要
となりますが、この計画についてはどのように考えておられるのでしょうか。
数値の現状や展望についてどのようにお考えでしょうか。

担当部局 観光入込客数については、総合計画策定時より減少しています。

目標に達していない一つの要因としては、大雪や大雨災害、新型インフル
エンザの流行や世界経済の不況など、外的な要因による部分があると思っ
ています。それに加えて、夏の海水浴や若者のアウトドア離れ、以前に比べて
カニの魅力が落ちてきたことなどが大きな要素かと思っています。温泉施設
についても、以前のような温泉ブームもないなど、観光客が増える要素を見
つけることができないという現状にあります。

そういった中で、何とか価値を作り出そうということで、山陰海岸ジオパークを中心にしたものや、新たな入込客を目指そうと、外国人の誘客を増やそうということでインバウンド事業などの施策を展開していますが、目標数値である250万人の到達は、現状では非常に厳しいものがあり、現状の180万人を何とか維持していきたいと考えています。

委員長 施策目的やめざす目標の現状の数値については、観光を取り巻く現状が厳しい中では、やむを得ないと思われれます。

事業と施策方針との適合性並びに事業の内容、成果及び今後の方向性について、ご質問があればお願いします。

委員 先ほどの説明では、インバウンド推進事業について、今後力を入れていくということでしたが、昨年度の決算額より今年度の予算額が少なくなっているのはなぜでしょうか。

担当部局 平成23年度のインバウンド推進事業の予算は、昨年度より少なくなっていますが、このほかにも観光協会へのインバウンド関連の補助金があり、これらを併せた総額としては、昨年度と大きくは変わっていません。

委員長 ほんもの体験観光のまち推進事業では、フォーラムやセミナーを開催されていますが、これはどのようなカタがターゲットで、どのような内容なのかももう少し詳しく教えてください。

担当部局 世界ジオパーク認定審査会を控える中、それに向けて、市民の機運を高めるため、広く一般の市民のかたを対象に、観光まちづくりフォーラムを開催しました。

また、セミナーについても、これまでは、観光事業者をメインにしていましたが、もう少し幅を広げて、直接観光業に携わっていない方々についても、ご参加くださいということでセミナーを開催しています。

委員長 成果としてはどのようなものが挙げられますか。

担当部局 フォーラムについては、もっと地域を知っていこうとか、地域を知ることから極上のふるさと観光作りが始まるということで、そういった意識付けが持てたことが成果と考えられます。

セミナーについては、幅広い方々に参加してもらうことで、これまで観光業者の視点でしか見ることができなかった地域資源の掘り起こしができた

考えています。セミナーは、今年度も継続しており、ワークショップのような形で観光ポスターの写真について意見をいただき、ポスターに反映したりと、セミナー参加者に少しずつ観光の施策的なところまで入ってきていただいているという流れにあります。

委員 観光立市を目指すということであれば、市外からどれだけの人が訪れて、どれだけの人が宿泊されているかが、大事になってくると思われます。どの事業をやめて、どの事業を続けるのかということであれば、今後の方向性において、もう少しそのあたりに視点を置き、メリハリを付けたほうが良いと思います。

そのような中では、一過性の大会などよりも、京丹後市ならあれがあるという、例えばサッカー大会とかウルトラマラソンなど、継続して実施できるものが大事だと思います。

担当部局 資料には出てきていませんが、新たな取組として、宿泊効果が期待できるイベントや大会の誘致を進めています。

また、宿泊者を増やすための施策として、市内におけるイベントや大会の実施団体に対し、宿泊人数に応じて補助金を交付する、観光業等活性化推進事業補助金を設けています。

委員 観光協会と直接お客さんのニーズを聞く宿泊業者とで、こういった連絡体制が取られているのでしょうか。

インバウンド推進事業で外国から観光客を迎えるに当たり、外国人の受け入れがしっかりできるかどうかについて、宿泊業者と話し合った上で進めておられるのでしょうか。

担当部局 観光協会の中で宿泊業者からしっかり意見を聴いてもらっていると考えています。

一方で、観光協会の支部長会議に観光振興課の職員も出席し、観光協会の考えや支部の会員の宿泊業者からの意見などについて、直接意見を聴くということを今年度から開始しています。

個々の宿泊業者とのやり取りは、現実的にはなかなかできていませんが、もっとやり取りをすべきとは考えています。

委員長 どういった事業を削減できる可能性があるかということについて、ほんも

の体験観光のまち推進事業に関しては、セミナー受講者などから、新しい提案が出てきていないのであれば、セミナー開催経費の126万円という金額は目立つと思います。

水難対策事業についても、海岸の近くで宿泊業をされているかたにも関係することですので、これらのかたに市の財政が厳しいことを理解してもらい、連絡員の報酬の減額やボランティアでも協力してもらえよう説得が必要と思われる。

観光サイン整備管理事業についても、財政が厳しい中では、第2次整備計画ということもありますが、第1次整備計画で当分凍結というようなことも考えられます。

あじわいの郷支援事業についても、あじわいの郷を一つの拠点として大きな支援をしていくという説明でしたが、多少、金額を抑えつつも何か工夫できないかとあじわいの郷へお願いされてはどうでしょうか。

ご感想があれば、担当部局の意見をお願いします。

担当部局 ほんもの体験観光のまち推進事業については、平成23年度からは国の補助を受けた2か年のパッケージ事業へ移行していますので、このパッケージ事業の成果などを見極めながら、平成25年度以降の予算をどうしていくかを考える必要があります。

水難対策事業については、地元のかたが連絡員をボランティア的に行うことが理想と思われませんが、非常に難しく、すぐにとすることは無理と思われます。

観光サイン整備管理事業については、既に設置している観光サインの設置数や設置場所についての見直しは必要と考えています。

あじわいの郷支援事業のほとんどが(財)あじわいの郷への負担金で、これは、京都府や地元市で負担するあじわいの郷を運営していくために必要な経費です。現在、協力会などで月1回のイベントを開催するなど、利用を上げる取組を行っているところです。

委員 様々な事業があり、どれも本当に必要だとは思われます。行政が自ら削減することは難しい事業が多いと思われるので、何のために観光事業を行うのかということを考えると、観光協会を巻き込んでどの事業が必要かというこ

とを議論すべきと思います。

現在、継続して行っているウルトラマラソンは、市職員だけでなく、地域のボランティアにも協力をしてもらって、継続できています。

先ほど担当部局から説明のあったように、イベントなどを誘致してくることはありがたいことですが、それを継続していくためには、地元のかたの協力が必要となっています。

また、何のために観光事業を行うのかと考えたときに、観光協会や宿泊業者の収入に影響してくるのであれば、これらのかたとの議論の場をもっと持って、お金や人員などの足りない部分は、地元のかたにフォローしてもらおうという体制を築いていかないと、どの事業も継続がますます難しくなり、どれも中途半端にならないかが心配です。

委員 長 観光施策については本当に難しいところではありますが、何とかいろいろ知恵を出しながらやっていただきたいと思います。

施策評価のまとめ（第2回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

前回委員会における施策評価結果について、評価の振り返りと評価結果のまとめを実施。

委員 長 事業構成についていかがでしょうか。

前回の委員会終了後に、市と観光協会で重複する内容の事務事業があるという意見が出ていました。担当部局からは、「重複しているように見えますが、重複はしていません」という説明になっています。

委員 市民からすれば、市と観光協会のどちらにお願いに行ったら良いのか、この計画はどちらが担当しているのかが見えず、ややこしく感じる部分があります。しっかり、役割を分担していただくと分かりやすいと思います。

委員 長 役割を明確にして欲しいということでしょうか。

委員 事務事業の重複の整理も重要と思います。

委員 長 事務事業に重複がないようにしてもらいたいということですね。ただし、これだけ書くと、事業構成全体として妥当であるかどうか分らず、また、ほかの施策が、おおむね妥当と書かれていると、この施策については、妥当ではないとも見えますので、現在の事業構成でおおむね構わないということ

が前段にあって、後段で外部評価結果（案）で示している内容を言ってもよいと思われます。

施策の見通しについて、外部評価結果（案）には記載されていませんが、京都府も振興局で観光のことをされている中で、市との連携が密ではないように感じました。

以前、農林の関係で、京たんご ぼたん・もみじ比治の里（猪・鹿肉処理施設）の研究成果を発表させていただいた際に、京都府の職員も出席いただいていた。その中で、京都府としては、旅館などと相談して、鹿を使ったメニューを積極的に作っていきたいというような話があったのに対し、京丹後市の職員は、初めて聞いたと言っておられたので、それぞれで動いておられたような印象を受けました。

委員 前回の委員会で言えなかったことですが、指定管理施設運営事業に関連して、市の観光施設が、指定管理者制度で民間によって運営されることで、観光面よりも経営面が重視され、観光施設の魅力が低下しているように思われます。

委員長 どのようなことでしょうか。

委員 例えば、温泉施設については、観光客を対象にするより、毎日来てもらえる地元のお客さんを対象にしたほうが収益は上がるため、観光よりも誘客に力を入れているように思われます。

また、市が運営していたときは、施設間の連携があったと思いますが、指定管理者は管理者がそれぞれ異なりますので、連携がなくなったように思われます。

民間事業者が運営しているためやむを得ない部分もあるかもしれませんが、指定管理業者を選定する場合には、金額面だけでなく、本来の施設の目的も考慮し、市の観光への協力なども加味するべきと思われる。

観光という視点からは、指定管理者も、連絡会議を持つなどをして、市の魅力的な施設になるように工夫してもらいたいと思います。

委員長 今の意見について、書き加えるとなると事業構成の部分と思われる。

全体の事業の問題点を指摘するような場所ですので、大きく見ると方向性というレベルでは問題ありませんが、いくつかの問題があるという中で、既

に記載されている観光協会との重複のほかに、指定管理施設運営事業について、各施設が市外の観光客を誘客する魅力が劣ってきているところがあるということと、全体の観光政策の手段としての相互連携がうまくとれていないところがあるように思われるというようなことを指摘するようにしましょう。

外部評価報告書（案）の検討（第6回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

外部評価報告書（案）について、委員会としての意見の再確認を実施。

委員長 施策の見通しで、「京都府の観光部署と連携を強化し、効率的・効果的に観光の振興を図るべき」となっていますが、「京都府丹後広域振興局の観光部署」ということだったと思います。

また、連携について何もやっていないわけではないと思いますので、「京都府丹後広域振興局の観光部署との連携を強化すべき」くらいで整理しましょう。

外部評価報告書（案）の検討（第7回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

委員会からの意見や歳出抑制案の提案内容について、担当部局との議論の機会を持ち、最終的な委員会としての意見のまとめを実施。

委員長 先ほど、担当部局から、委員会からの提案内容の実施が困難であるという説明を伺いましたが、委員会では、破綻する前に破綻した気になって削減できることを探そうということで提案していますので、委員会からの提案内容が難しい内容であることは承知しています。

ただ、担当部局の立場から見て、提案内容が余りに無理だと言われるのであれば、どの事業をどうするのかという代替案があるべきだと思います。

提案内容全部を、必ず実行してくださいという趣旨ではありませんが、実行しないのであれば、代替案がないと、どうしようもないという趣旨です。

そういう意味では、この歳出抑制の提案については、実行しないのであれば、観光施策ではどのような歳出抑制策をするのですかと、観光施策としては全く歳出抑制ができないのであれば、市政全体としてどこでどんなふうに、

財政のつじつまを合わせるのですかということを考えないといけないということになります。

本施策についての委員会意見としては、外部評価報告書（案）のとおりとさせていただきますと思います。